

壇の浦夜泊（木下犀潭）

篷窓月落不成眠 壇浦春風五夜船
漁笛一聲吹恨去 養和陵下水如煙

解説 平家滅亡の地として名高い古戦場を訪れた時の詩。

篷窓 月 落ちて 眠を 成さず

語釈 ※夜泊Ⅱ夜、船中に泊ること。※篷窓Ⅱ船の窓のこと。

※五夜Ⅱ五更と同義。今の午前四時ごろ。※漁笛Ⅱ漁師の吹く笛のこと。

※恨Ⅱ安德帝及び平家一門の恨み。※養和陵Ⅱ安德天皇の墓。

壇の浦の 春風 五夜の 船

通釈 先刻まで、船の窓に見えていた月も沈んでしまったのに、な

漁笛 一声 恨を 吹いて 去る

かなか眠れない。今宵は壇の浦の船泊りで、暖かい春風が吹きわたつて、もう五更もとうに過ぎていく。すでに、漁を始めた漁師の笛の音が、安德帝はじめ、平家一門の恨みをこめるかのように、響きわたる。見れば、安德帝の墓、養和陵の下手あたりの海面は煙が立ち

こめたようだ。

養和 陵下 水 煙の 如し